

今月の
ピックアップ

丸山 大先生(リンパ腫グループ代表者)にご寄稿いただきました

2025年4月からJCOGリンパ腫グループ代表者を拝命致しました、がん研究会有明病院血液腫瘍科の丸山大と申します。JCOGの中でも屈指の老舗グループであるリンパ腫グループの五代目代表者としてグループ内での合意およびJCOG運営委員会での承認を賜り、大変に光栄なものと存するとともに、その重責に身が引き締まる思いであります。

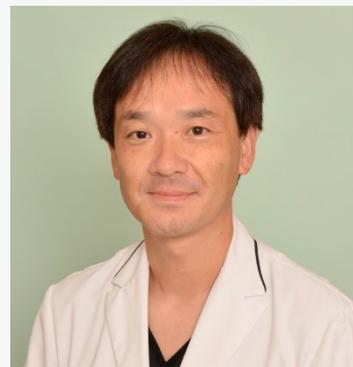
JCOGの基となるがん研究助成金末弁発足の1978年から、下山正徳先生を代表者としてわずか5施設でリンパ腫グループは立ち上がりました。その後、堀田知光先生、塚崎邦弘先生、永井宏和先生のグループ代表者を経て、これまでにリンパ腫および多発性骨髄腫のリンパ系腫瘍を対象とした39の臨床試験を実施し、今や北は北海道から南は鹿児島県まで52施設(2025年5月現在)が参加するグループへと発展して来ました。

特に成人T細胞白血病・リンパ腫(JCOG9801)や節外性NK/T細胞リンパ腫・鼻型(JCOG0211)では国際的な標準治療を確立し、またマントル細胞リンパ腫に対する初回奏効期の自家移植(JCOG0406)、進行期古典的ホジキンリンパ腫における中間PET検査結果による治療変更戦略(JCOG1305)の国内での標準化に貢献しました。

最近では未治療進行期低腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するrituximab早期介入の意義を検証するランダム化第III相試験結果(JCOG1411)を報告しました。多発性骨髄腫に対するランダム化第II相試験(JCOG1105)に引き続き、国内では研究者主導として20年以上振りとなるランダム化第III相試験(JCOG1911)も実施しました。また現在も複数のリンパ腫病型に対する第III相試験が進行中で、さらにグループ内では次期試験の検討が活発に行われています。

私がJCOGリンパ腫グループに参加した契機は、2004年から国立がんセンター中央病院血液内科(当時)のがん専門修練医として研修したことでした。それまで私が臨床研究や臨床試験に関わった経験はほぼゼロに等しく、飛内賢正先生の厳しくも優しいご指導や、リンパ腫グループのコアメンバー会議と班会議を傍聴して、諸先輩方の活発な議論と深い洞察に圧倒されたことを覚えています。

私自身も臨床試験への興味が強くなり、2012年からは渡辺隆先生の後任としてリンパ腫グループ事務局を引き継ぎ、2023年まで務めさせていただきました。グループ事務局時代は、コアメンバーや研究事務局の選定方法などのグループ運営に関わる取り決めを作成し、参加施設の研究者が新規試験の提案や検討と一緒に関わることが出来る仕組みづくりと、若手研究者がより参加しやすい環境整備に努力しました。JCOG研究者としても飯田真介先生のご指導の下でJCOG1105研究事務局を務め無事に研究の完遂と新しい知見の創出および論文化を為すことができました。ついでJCOG1411研究事務局(副)、JCOG1911研究代表者を務める機会に恵まれました。



リンパ腫グループ代表者 丸山 大

このように、歴史あるリンパ腫グループを継承し、さらに発展するために以下のような課題を中心的に取り組んでいきたいと考えています。

- ① 登録中試験の更なる患者登録促進
- ② 新規臨床試験の切れ目ない検討・立案と適切かつ迅速な実施
- ③ 学会発表・論文化の迅速化
- ④ 研究資金の継続的な獲得
- ⑤ 臨床試験と連動する試料解析研究(附随研究)の更なる推進
- ⑥ 若手/女性研究者の育成・登用の活性化
- ⑦ リンパ腫グループにおける患者・市民参画の継続性と活性化
- ⑧ リンパ腫グループ参加施設の活性化と新規施設の増加(出来れば純増)
- ⑨ 海外研究者との連携・共同研究の推進
- ⑩ JCOG外の施設・研究者との連携(開かれたリンパ腫グループ)

リンパ腫や骨髄腫などのリンパ系腫瘍の領域でも新薬開発が盛んで、主に企業主導治療による大きな臨床試験結果が次々と公表されています。われわれは研究者主導臨床試験グループとして、将来の患者さんのために、われわれにしか出来ない医学的価値のある臨床試験の実施と標準治療の確立に邁進して参ります。

このような機会を与えていただいた前グループ代表者の永井宏和先生、元グループ代表者の塚崎邦弘先生、いつもリンパ腫グループにご協力下さる参加施設の諸先生・皆様方、グループ事務局として支えてくれる棟方理先生、私をこの道に導いて下さった飛内賢正先生、また福田治彦先生をはじめとするJCOGデータセンター/運営事務局の皆様方に心より感謝申し上げますとともに、これからもご一緒にどうぞ宜しくお願い致します。最後に、リンパ腫グループの臨床試験に参加いただいた全ての患者さんとそのご家族へ深く感謝の意を表します。

JCOGリンパ腫グループ代表者

公益財団法人がん研究会有明病院・血液腫瘍科 丸山 大

JCOG研究に関わる研究結果やイベント情報など最新情報を発信しますので、ぜひフォローしてくださいね!

Xユーザーネーム: @JCOG_official URL: https://x.com/JCOG_official/

Facebookページ URL: https://www.facebook.com/JCOG_official

JCOGウェブサイトのトップページからも関連ページへアクセスいただけます。

JCOG2405 頭頸部がん/放射線治療グループ 新規試験

頭頸部がんおよび放射線治療グループの合同で立案した新しい臨床試験「JCOG2405」(高用量シスプラチン併用化学放射線療法不耐の高齢者頭頸部扁平上皮癌に対するWeekly CDDP 併用化学放射線療法の意義を検証するランダム化比較第III 相試験、略称:ELDER WEEKLY)が承認されました。本試験の立案からプロトコル作成、そして承認に至るまで、頭頸部がんおよび放射線治療グループ、データセンターおよび運営事務局、各種委員会、プロトコル審査委員会の先生方をはじめ、多くの皆様に多大なるご指導とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

手術の適応とならない局所進行頭頸部がんに対しては、主に70歳未満の患者さんに高用量のシスプラチン(体表面積あたり100 mg、3週間毎に1回投与、合計3回)と放射線治療を同時に行う高用量シスプラチン併用化学放射線療法が一般的に行われています。一方で、70歳以上の患者さんでは、併存疾患などにより高用量のシスプラチンが投与できない場合があり、その際は放射線単独治療が標準治療と考えられています。頭頸部がんグループでは、過去の臨床試験(JCOG1008)を通じて、頭頸部がんに対してより少ない用量のシスプラチンを毎週投与する方法(体表面積あたり40 mg、毎週投与、合計7回)を開発してきました。この方法は「Weekly CDDP(ウィークリーシスプラチン)」と呼ばれ、従来の高用量シスプラチン併用化学放射線療法よりも副作用が少ないと考えられています。私たちは、高用量シスプラチン併用化学放射線療法が受けられない70歳以上の患者さんに対して、Weekly CDDP併用化学放射線療法が治療選択肢になるのではないかと考えました。そこで、この治療が放射線単独治療と比較して有効かつ安全であるかどうかをより詳しく調べるための臨床試験を計画しました。



研究代表者
清田 尚臣



研究代表者
中村 聡明



研究事務局
安田 耕一



薬物療法
研究事務局
本間 義崇



聴力検査
研究事務局
上田 百合



放射線治療医学物
理研究事務局
鈴木 隆介

本邦は世界において最も高齢化が進行しており、70歳以上の頭頸部がん患者さんは今やほぼ半数を占めています。高齢者の放射線治療に対する化学療法の上乗せ効果に関してエビデンスは極めて乏しく、高齢者に対して放射線単独治療と化学放射線療法のどちらが良いかについては4半世紀以上議論が続いています。JCOG2405にて新たな知見を得て、この臨床疑問を解決したいと考えています。世界に目を向けると、日本を後追いつくように多くの国で高齢化が進むことが予測されています。この試験の結果は世界においても大きなインパクトを与えることを期待しています。

本試験の完遂・成功に向けて、参加施設一丸となって取り組んで参ります。関係の皆様方には引き続き、ご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

研究代表者

神戸大学医学部附属病院 腫瘍センター 清田 尚臣
関西医科大学附属病院 放射線治療科 中村 聡明

研究事務局

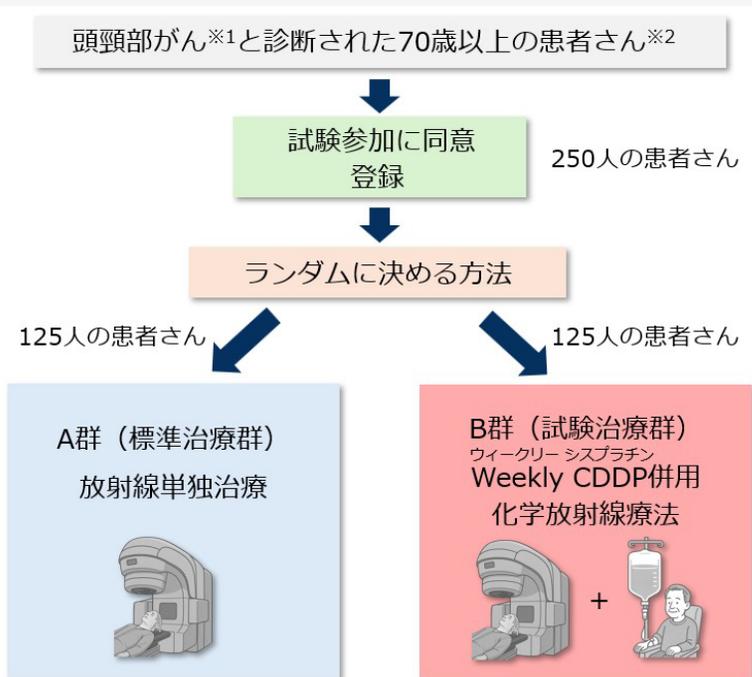
北海道大学療法研究病院 放射線治療科 安田 耕一
薬物療法研究事務局
国立がん研究センター中央病院 頭頸部・食道内科
本間 義崇

聴力検査研究事務局

東京医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野
上田 百合

放射線治療医学物理研究事務局

北海道大学病院 医学物理部 鈴木 隆介



※1 扁平上皮癌、部位：中咽頭・下咽頭・喉頭、Stage：III-IVB (p16+中咽頭がんはT1-3N2M0のStage II、またはStage III)

※2 高用量シスプラチン併用化学放射線療法が受けられない患者さん

JCOG研究の論文公表



◇ 肺がん外科グループ JCOG1413S1 坪川 典史先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40578313/>

Quality comparison of mediastinal lymph node dissection between video-assisted thoracic surgery and open thoracotomy: a supplementary analysis of the phase 3 Japan Clinical Oncology Group 1413 trial,

European Journal of Cardio-Thoracic Surgery, 2025 Jun 19. Online ahead of print

◇ 肺がん外科グループ JCOG2217デザインペーパー 三留 典子先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40577245/>

A multi-institutional randomized phase III trial of lobectomy versus segmentectomy for radiologically solid-predominant non-small cell lung cancer with a ground-glass opacity and tumor diameter > 2 cm and ≤ 3 cm: JCOG2217 (STRONG), Japanese Journal of Clinical Oncology, 2025 Jun 18. Online ahead of print

◇ 大腸がんグループ JCOG1107 赤木 智徳先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40557341/>

A Randomized Open-Label, Noninferiority, Phase 3, Multicenter, Controlled Trial to Compare Laparoscopic Surgery With Open Surgery for Symptomatic, Noncurable Stage IV Colorectal Cancer (JCOG1107), Annals of Surgery open, 2025 Jun.



担当医別月間登録数

- ◇ 肺がん外科グループ(月間登録数:4)
宮田義浩先生/広島大学病院
田根慎也先生/神戸大学医学部
- ◇ 胃がんグループ(月間登録数:2)
李 基成先生/がん研究会有明病院
- ◇ 食道がんグループ(月間登録数:2)
角田 茂先生/京都大学医学部附属病院
伊富貴雄太先生/広島大学病院
豊川貴弘先生/大阪公立大学医学部附属病院
- ◇ 乳がんグループ(月間登録数:2)
尾崎由記範先生/がん研究会有明病院
重松英朗先生/広島大学病院
- ◇ 大腸がんグループ(月間登録数:2)
高見澤康之先生/国立がん研究センター中央病院
- ◇ 脳腫瘍グループ(月間登録数:2)
大岡史治先生/名古屋大学医学部
- ◇ 肝胆膵グループ(月間登録数:2)
亀井敬子先生/近畿大学病院
(担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)

グループごと月間登録数



登録数月次レポート

<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

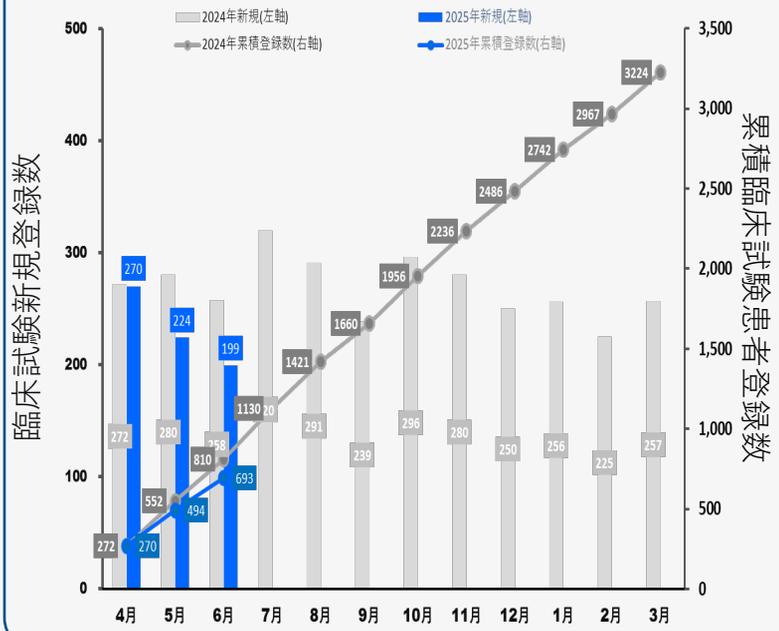
グループ	4月	5月	6月	合計
肺がん外科	74	68	69	211
大腸がん	51	39	26	116
胃がん	34	23	23	80
肝胆膵	26	17	19	62
食道がん	24	25	13	62
リンパ腫	17	8	12	37
消化器内視鏡	9	14	6	29
乳がん	8	10	8	26
脳腫瘍	8	6	8	22
放射線治療	5	8	9	22
泌尿器科腫瘍	10	6	3	19
骨軟部腫瘍	3	0	1	4
肺がん内科	1	0	2	3
頭頸部がん	0	0	0	0
皮膚腫瘍	0	0	0	0
婦人科腫瘍	0	0	0	0
合計	270	224	199	693



JCOGデータセンターより

● 2025年6月の登録例は199例でした

各グループで大規模試験の登録完了試験が多くなってきていることもあり、全体的に低調でした。月あたり200例を下回ったのは、2020年5月以来でした。これから、登録開始する試験もいくつか控えておりますので、既存の登録中試験と共に活発な登録をお願いいたします。



国立がん研究センター FUTUREプロジェクト

「満たされない患者ニーズを解決するための内科系研究プロジェクト」
皆さまからのあたたかいご支援が、多くの患者さんの「FUTURE(未来)」につながります。
https://www.ncc.go.jp/d004/donation/future_project/index.html